

鹿児島大学歯学部創立40周年を迎えて

著者	宮脇 正一
雑誌名	鹿児島大学歯学部紀要
巻	38
ページ	3-3
発行年	2018-03-25
URL	http://hdl.handle.net/10232/00030228

鹿兒島大学歯学部創立40周年を迎えて

鹿兒島大学歯学部長 宮 脇 正 一



鹿兒島大学歯学部は、昭和52年（1977年）10月に鹿兒島のシンボルである桜島や鹿兒島市街を一望できる桜ヶ丘キャンパスに設置されました。翌年4月に歯学部学生第1回生を受け入れ、昭和55年（1980年）4月に歯学部附属病院が開院、昭和59年（1984年）3月に第1回生が卒業しました。また、同年4月に大学院歯学研究科が設置され、昭和63年（1988年）3月には博士号の学位記が初めて授与されました。その後、平成15年（2003年）4月に大学院歯学研究科が医学研究科と統合再編されて大学院歯医学総合研究科となり、10月には歯学部附属病院と医学部附属病院が統合再編されて現在の鹿兒島大学病院となりました。平成16年（2004年）4月に鹿兒島大学が独立行政法人化され、平成29年（2017年）10月に本学歯学部は創立40周年を迎えることができました。

本学歯学部は、明治維新で活躍した薩摩の先人たちの意志を受け継いで、困難な課題に果敢に挑戦する鹿兒島大学の「進取の精神」を基盤として、「歯科医療人である前に良識豊かな人間であれ」という基本理念の下、卒前教育では全国に先駆けてアウトカム基盤型教育を本格的に導入するとともに、離島巡回歯科診療同行実習や海外研修などを盛り込んだ、特色あるカリキュラムを構築してきました。研究面では、口腔と全身との関連性や口腔・顎顔面領域の再生医療など、本質的かつ先端的なテーマに積極的に取り組みつつ、診療面では口唇裂口蓋裂をはじめとする先天性疾患に対応する高度な包括的医療を提供するなど、全人的歯科医療を実践し続けてきました。このように、地域と世界で活躍できる人材の育成に努めた結果、今日までに2059名の歯科医師・研究者・教育者を輩出して参りました。現在、本学歯学部の卒業生は、本学ならびに他大学の教授として国際的に活躍するとともに、鹿兒島県歯科医師会会長をはじめ南九州地域の歯科医師会の役員を務めるなど地域医療にも大きく貢献しております。

また、最低修業年限での歯科医師国家試験合格率で全国上位を維持するとともに、今年度の科学研究費の新規採択率が学内部局間でトップになりました。そして、本学歯学部のこれまでの海外での活動について産業界からも極めて高く評価されるなど、全ての面において着実な成果を上げてきています。

現在、本邦では急速に少子高齢化が進んでおり、健康長寿を目指すための医科歯科連携が社会的に要請されています。また、南九州地域においては、地震や桜島の大噴火などの大規模災害の発生が懸念される中、災害歯科医療や法歯学へのニーズも高まってきており、南九州から沖縄までの地域で唯一の歯学部である私たちの責任は、極めて重大であります。一方、海外へ眼を転じますと、多くのアジア諸国において、高等教育機関が不足してきております。従いまして、アジア諸国の大学の参考となり得る優れた教育フィールドを有し、地理的にもアジア諸国に最も近い位置にある本学歯学部が果たすべき役割は、益々大きくなってきております。

創立40周年という節目を迎えた今、私たちはこれまでの良き伝統を守りつつ、医科歯科連携の強化や災害歯科医療・法歯学への取り組みを進めて参ります。さらに、留学生の積極的な受け入れなどを含めた歯学部の教育・研究・診療の国際展開を通じて、鹿兒島大学のグローバル化に貢献する所存でございます。このように本学歯学部は、地域に誇れるかつ世界からも注目される存在として、持続的に発展し新しい未来を創造して参りたいと思います。

創立以来、本学歯学部に賜りました数々のご指導ならびにご支援に心より感謝申し上げますとともに、本学歯学部創立40周年記念事業にご協力いただきました皆様へ厚く御礼申し上げます。